

外国人居住者の増加が進む千葉県内の地域に関する研究

日大生産工(院) ○古内 孝征
日大生産工 山岸 輝樹

1. 背景・目的

日本では外国人労働者受け入れ拡大に伴い、将来的な外国人の定住化が進むと考えられる。特に公営住宅を含めた住宅団地は入居のハードルが低く、賃料も比較的に安いいため外国人が入居しやすいと考える。

しかし、文化や生活習慣の違いから外国人とのトラブルも少なくない。また、現在外国人居住者が少ない地域では対策も不十分であると予想される。

将来的な外国人との共生を目指すうえで住環境の整備や政策を練るためには、まずは外国人居住者の多い地域での現状を把握し、外国人居住者の居住性や地域内での広がり等を調査する必要があると考える。

本稿では、現在外国人居住者が現在増加している地域についての現状を把握し、集住の特徴と住居種別との関係を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

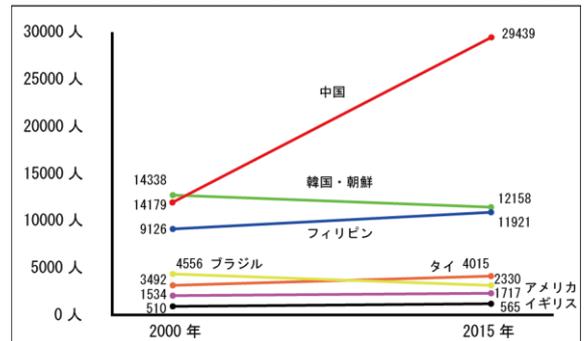
まず初めに千葉県内を研究対象として、外国人が増加している地域を特定する。その後地域内の住居種別などから外国人居住者が生活する分布等を調査する。また地域内別での外国人居住者の増減数や人口の経年変化からより細かく居住地の現状を明らかにする。

3. 千葉県内における外国人の現状

H27年時点で、千葉県にはおよそ9万人の外国人居住者がいる。中でも韓国・朝鮮、中国、フィリピン、タイの方が多く住んでおり、合わせておよそ4万5千人と外国人居住者数の半数を占めている。

2000年から2015年において中国人が1万4千人から2万9千人と国籍別では居住数、増加率ともに最も多い。その反面、2000年時点では韓国・朝鮮人が1万4千人と最も多く占めていたが2015年時点では1万2人と減少傾向にある。中国、韓国・朝鮮に続いてフィリピン人が1万1千人、タイ人が4千人と続いている。(表1)

表1 千葉県における外国人居住者数の変化



本研究では国籍別に多くの居住者がおり、近年も増加傾向にある中国、フィリピン、タイ人が最も居住する千葉市美浜区、市川市、旭市を調査対象とした。

4. 千葉県内における外国人の現状

4-1. 千葉市美浜区における調査

H27年時点で千葉市には6千人を超える中国外国人居住者がおりその半数を占める2918人が美浜区に住んでいる。

美浜区では高浜1丁目に1021人、幸町2丁目に689人、高洲2丁目に503人、高洲4丁目に344人、高洲3丁目に334人と高洲地域を中心として集住している。(図2)

次に美浜区における公営住宅及びUR賃貸を調査したところ、公営住宅に比べUR賃貸を含めた多くの大規模な住宅団地が美浜区の中心部に密集していることが分かる。また、外国人居住者が集住している地域と大規模な住宅団地がある位置は一致していた。(図1)

H12年からH27年の美浜区における外国人居住者の地域別での増減数を調査したところ、高浜1丁目が648人増、高洲4丁目が264人増と他の地域に比べて増数が高いことが分かる。また、図5での外国人居住者数が多い5つの地域はいずれも増加傾向にあり、一極集中している。さらに打瀬全域で560人、真砂全域で595人と1千人を高洲や高浜に比べて居住者数は多くはないが、いずれの地域内の一部では高洲1,3丁

Study of the area in Chiba that the increase of the foreign resident goes ahead through

Issei FURUUCHI, Teruki YAMAGISHI

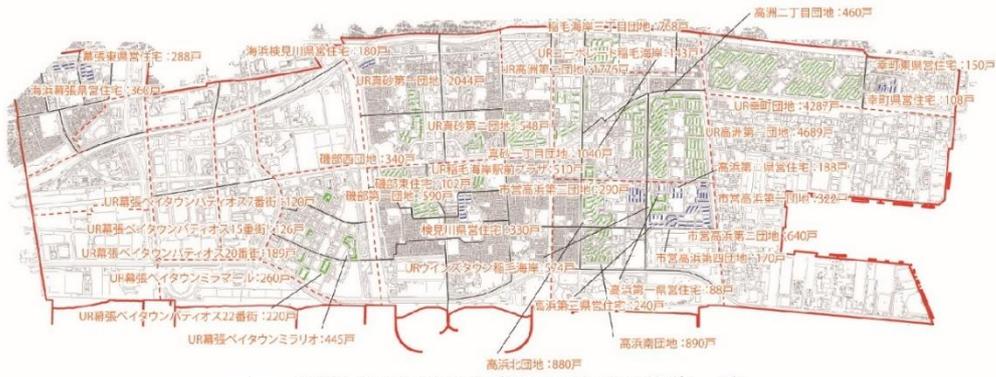


図1 美浜区における公営住宅及びUR賃貸一覧

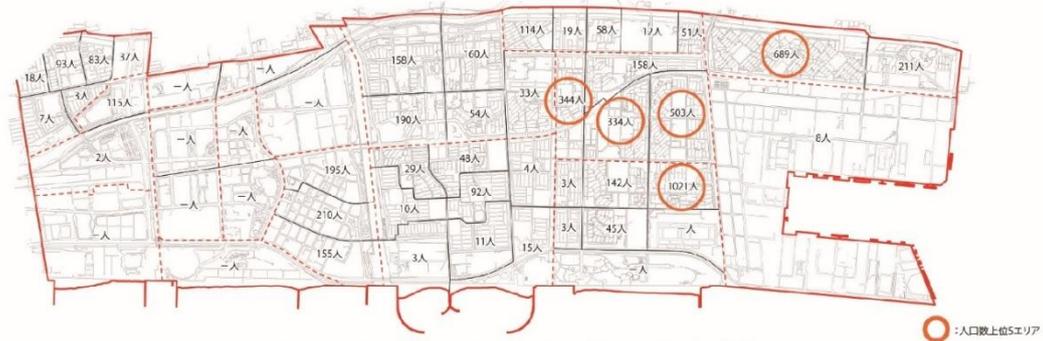


図2 H27年の美浜区における外国人居住者数

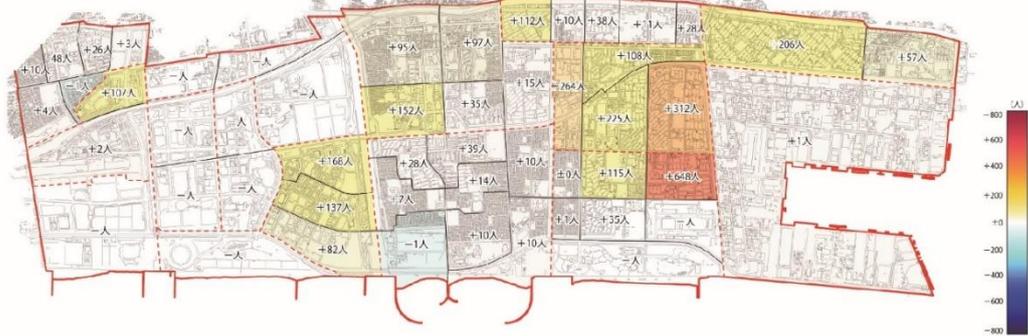
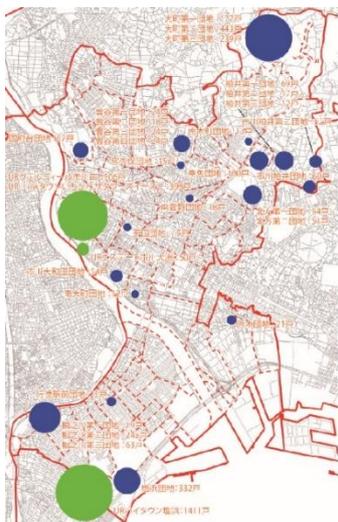


図3 H12～H27年の美浜区における外国人居住者の増減数



(左から順に) 図4 市川市における公営住宅及びUR賃貸一覧

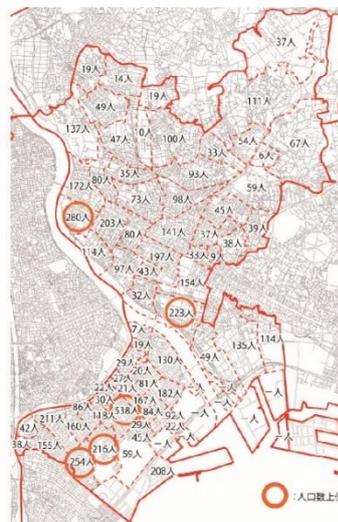


図5 H27年の市川市における外国人居住者数

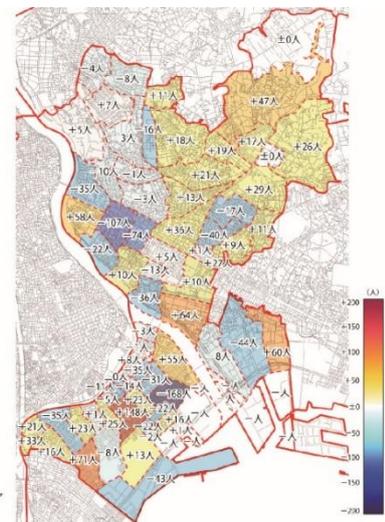


図6 H12～H27年の市川市における外国人居住者の増減数

目に近い100人を超える増加数の地域もみられた。(図3)

4-2. 市川市における調査

H27年時点で市川市にはおよそ6千人を超える外国人が居住しており、そのうち中国人が2648人、フィリピン人が618人を占めている。

市川市では、行徳駅前に538人、市川南に280人、南行徳に254人、田尻に223人、福栄に216人と主に南西部にかけて集住していることが分かる。(図5)

次に市川市における市営・県営といった公営住宅及びUR賃貸の分布とその戸数を調査する。その結果、多くの戸数を持つ住宅団地は北端、南西部に位置しており、また内陸部には小規模な公営住宅が点在していることが分かった。(図4)

次の段階としてH12年からH27までの市川市における外国人居住者の地域別での増減数を調査する。その結果、福栄を除き外国人居住者数が多い4つの地域ではいずれも増加傾向にあることが分かった。また現在の外国人居住者数はまだ多いわけではないが市川市北東部が市内では増加傾向にある。(図6)

4-3. 旭市における調査

H27年時点で旭市にはおよそ1千人の外国人居住者が住んでおり、他の市に比べても多いわけではない。しかし、タイ人が333人居住しており旭市の外国人居住者のおよそ3割を占めている。また、千葉市のタイ人は346人と最も多いがそれに次ぐ居住者数を占めるのが旭市である。

H27年時点での旭市における外国人居住者が多い地域は、鎌数で106人、旭市ニで98人、江ヶ崎で84人、三川で65人、鐮木で60人となっている。旭市の外国人居住者数が多い地域は南北に広がっており一極集中化はしていない。(図8)

次に旭市における公営住宅及びUR賃貸を調査したところ、UR賃貸はみられなかったが公営住宅は旭市内陸部の鎌数及び南部に位置する飯岡、北部に位置する鐮木にあることが分かる。(図7)

H12年からH27年までの旭市における地域別の外国人居住者の増減数を調査すると、最も増加数が多い地域は江ヶ崎の49人増で、周辺の地域では増加数20人を超える地域がみられず、高い増加傾向にあった。また、H27年での外国人居住者数が多かった5つの地域では、江

ヶ崎の近隣に位置する鎌数や旭市ニでは増加していたが、鐮木と三川では現在減少傾向にあることが分かった。(図9)

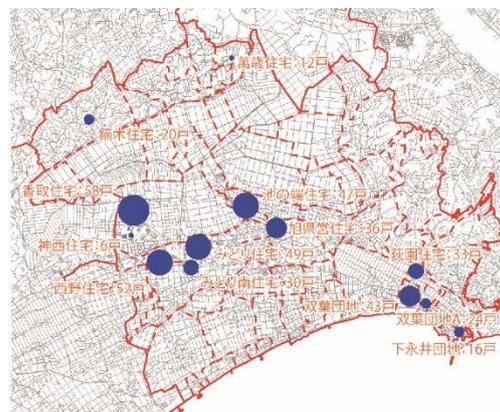


図7 旭市における公営住宅及びUR賃貸一覧

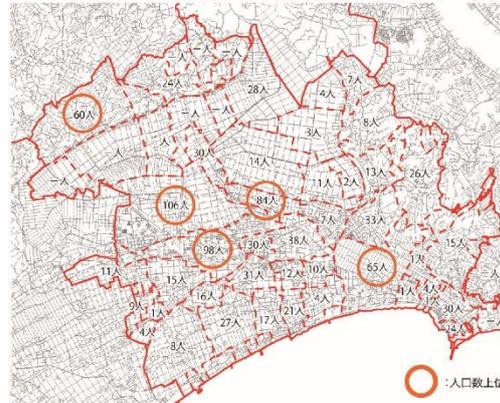


図8 H27年の旭市における外国人居住者数

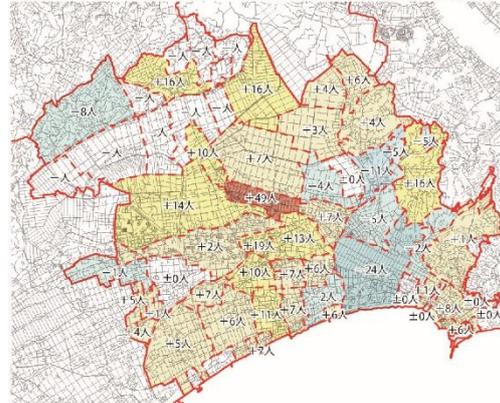


図9 H12～H27年の旭市の外国人居住者の増減数

5. 対象地域の調査結果からの比較

本稿での対象地域における調査結果をふまえてそれぞれの地域での比較を行う。

3つの地域の比較から、どの地域においても外国人居住者の増加が近隣に比べて集中するエリアがみられた。美浜区では高浜1丁目、市川市では行徳駅前、旭市では鎌数が周辺の地域と比較しても倍以上の増加数がみられた。

美浜区では外国人居住者が増加している地域は大規模な公営住宅及びUR賃貸が位置していたが、市川市や旭市では特にその傾向がみられなかった。

市川市では市川南や行徳駅前といった外国人の人口数や増加数が共に高い集住地域の近隣地域は減少傾向にあり、一極集中が他の対象と比べて顕在化している。その反面、旭市では旭市ニや鎌数を中心に緩やかな増加をしている地域がみられる。

6. 団地管理団体へのヒアリング調査

千葉県内での外国人居住者の現状及び地域の調査をふまえて、外国人居住者が多い地域での現状の課題を把握する為、主に美浜区における住宅団地を管理する千葉市・県の住宅供給公社へ過去ヒアリング調査を行っている。本調査では高浜4丁目に位置する高浜北団地の団地自治会にヒアリング調査を行い、公営住宅地との課題の比較を行う。また、過去行った千葉市国際交流課での取り組みと現状の課題から多文化交流の位置づけを管理課題との比較から考察する。

ヒアリング調査を行い以下の結果が得られた。(表2)

まず過去に美浜区における公営住宅を管理している住宅供給公社へのヒアリング調査を行い、現状の美浜区において日常生活における問題は主にゴミの出し方、共用部の専有化、騒音問題があげられた。また、それら問題への対策として注意喚起の張り紙や直接の指導を行っていた。

今回行った高浜北団地でのヒアリング調査では、現状公営住宅地でみられた日常生活におけるトラブルや問題はあまり発生していないとの回答が得られた。しかし、自治会活動における外国人居住者の参加は低く、コミュニケー

ションをする機会が少ないのが課題であった。

過去に千葉市国際交流課での外国人居住者への取り組みについて行った調査では、現状定期的に防災教室や紙芝居、ゴミ出しの体験など幅広いコミュニティを広げる活動を行っている。しかし、現状ゴミ出しに関するトラブルは起きており、国際交流において日本の文化を理解し外国人との仲介役になってくれるキーパーソンを探している。これより、自治会や住宅公社での問題を参考にしたゴミ出し体験等の交流を連携して行い、キーパーソンを探すだけでなくつくりだすことが求められると考える。

7. まとめ

千葉県内における現状調査を行い、それぞれの対象地域において集住化する地域がみられた。また、外国人居住者が多く住んでいる地域では公営住宅地が結びつくものと考えていたが、現状では旭市や市川市では当てはまらず、関係性は薄い。

高浜北団地におけるヒアリング調査の結果から、公営住宅地で発生している生活問題は現状あまりみられなかった。高浜北団地では以前別の地域で居住し、転居してきた外国人居住者が多いため、日本での生活に対応していることが考えられる。

国際交流課では定期的な交流を行っているが外国人居住者の仲介役を担う人材を探していること、また現状公営住宅地では依然として問題が起きていることから、自治会や行政が連携した取り組みを行うことで両者の課題を補うことが必要になる。

参考文献

- 1) 徳田剛, 二階堂裕子, 魁生由美子 編「地方発外国人住民との地域づくり多文化共生の現場から」晃洋書房(2019) pp.86-91, pp.98-163, pp.183-211.

表2 高浜北団地のヒアリング調査及び比較と国際交流課の位置づけ

<p>県・市住宅供給公社 日常生活に関するトラブル… あり 課題 ・ゴミの出し方、ゴミの分別をしない ・共用部の専有化(花壇で野菜を栽培等) ・騒音問題</p>	<p>□2つのヒアリング調査の比較から</p> <p>公営住宅地 ・比較的日本での生活が浅い人が多い ・居住年数が少なく転居が起きやすい</p>	<p>公営住宅地 問題を解決したい 国際交流 仲介役を發揮したい</p>
<p>高浜北団地自治会 日常生活に関するトラブル… なし 課題 ・自治会活動への参加者が少ない</p>	<p>・他の場所から転居してくる人が多い ・日本での長期的な居住を考えている人が多い 比較的日本での生活に慣れている</p>	<p>II ① 公社のデータに基づくトラブルに対応する体験機会の実現 ② 日本式生活の体験と交流機会からキーパーソンをつくりだす</p>
<p>千葉市国際交流課 課題 ・日本の文化や生活を理解し、日本語を話せることで両者の仲介的な役割を果たす外国人の発掘</p>	<p>キーパーソン II</p>	<p>→</p>